別紙様式第1号別添

策定年月	令和5年4月
見直し年月	令和7年7月

麦・大豆国産化プラン

産地名：伊賀市

（作成主体：伊賀市農業再生協議会）

１．麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

伊賀市は、全耕地面積（令和６年：5,940ha）に対して主食米の作付割合が約58.8%（令和６年：3,491ha）を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦の生産拡大及び団地化面積の向上図る必要がある。

麦の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、従来使用機種と比較して作業効率や省力化が図れるオートコンバインの導入など、効率的作業を可能とする生産性の高い麦産地づくりを推進するとともに、伊賀市で例年課題となっている赤かび病の防除を適期に2回以上行う。

また、実需と密接に連携し需要が拡大基調である品種へ生産を移行していくとともに、優良品種への切り替えを実需の理解を得ながら進める。

現在、伊賀市においては、水田収益力強化ビジョンなどにより水田活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

※　麦・大豆生産における課題（湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等）を具体的に記載すること。
※　課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

２．産地と実需者との連携方針

①需要に応じた生産と販売の実現

麦について、伊賀市で生産している品種「タマイズミR」は全農三重を通じて県内外の実需者へ出荷しているが、近年、タマイズミRの需要が減少している。課題となっているたんぱく質含量の低さを改善するために追肥技術を導入するとともに、将来的には適正生産量を維持した上で、需要がある「さとのそら」等新品種への切り替えを産地として検討していく。

②麦の生産性の向上に向けた技術の導入

麦については、適期作業による生産性の安定や収量向上を目的として、オートコンバインを導入する。

生産量目標

作物名	品種名	令和6年産（現状）			令和11年産（目標）			備考
		面積（ha）	単収(kg/10a)	生産量（t）	面積（ha）	単収(kg/10a)	生産量（t）	
小麦	タマイズミR	451.8	33.93	153.3				R6年産は赤かび病により収量減少
	さとのそら				400.0	200.0	800.0	R8年産から品種切り替え
作物計		451.8	33.93	153.3	400.0	200.0	800.0	

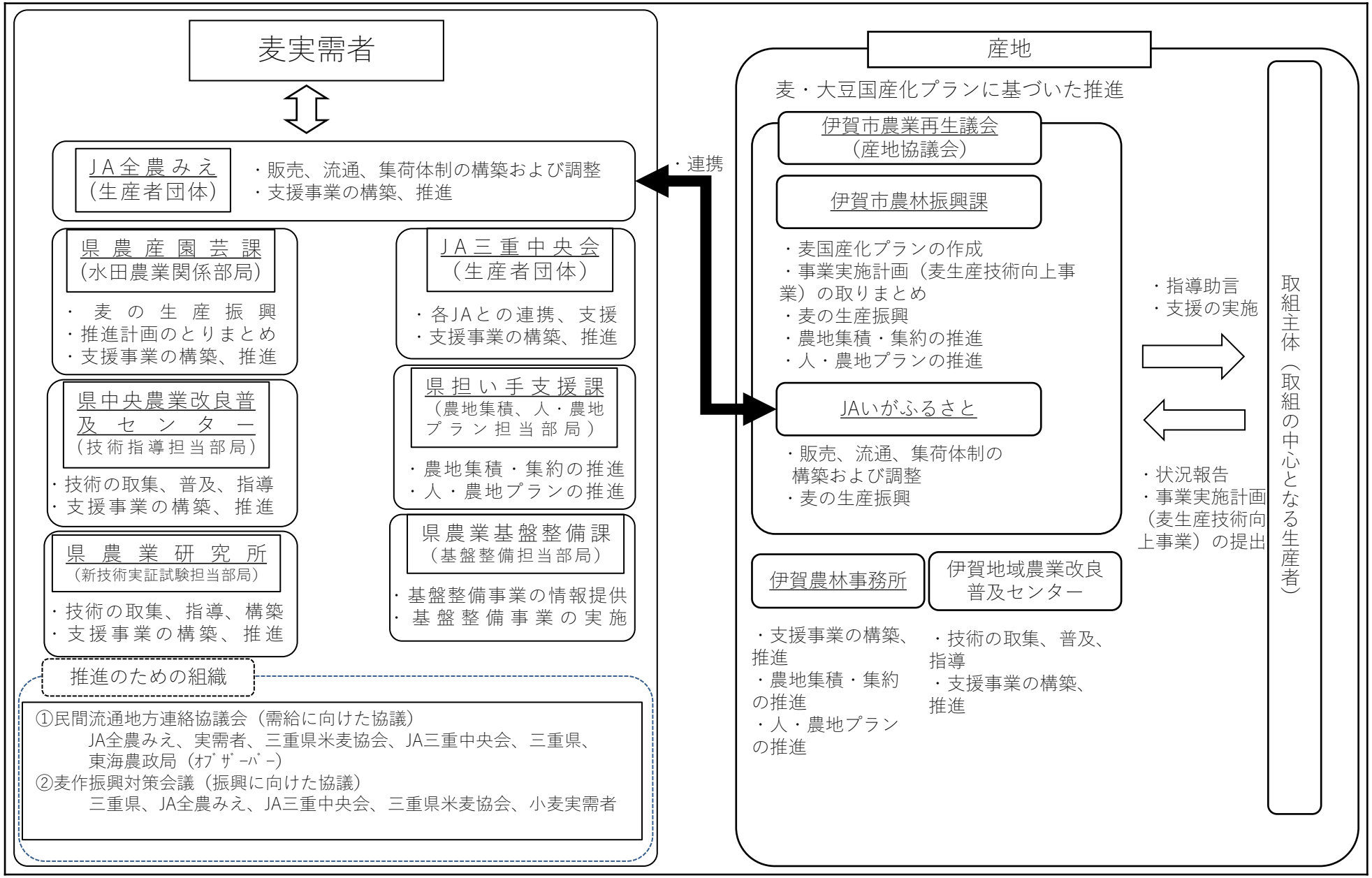
実需者取扱数量目標（単位：t）

実需者	タマイズミＲ		さとのそら	
	令和7年度	令和11年度	令和７年度	令和11年度
実需者	100.0	0.0	1,800.0	1,300.0

※実需者取扱量のうち令和7年度数字については見込み数字とする。

※　産地と実需者については具体的な名称を記載すること。
※　麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺会社等）とする。
※　大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。
　なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的な者の名称を記載すること。
※　産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。
※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。